

リハビリテーション部

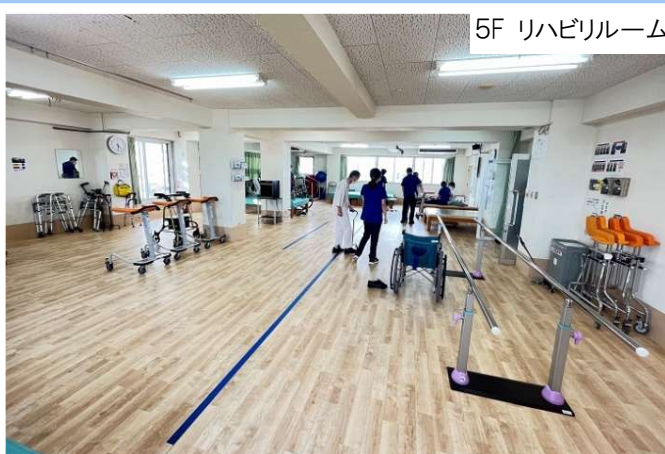
Rehabilitation

当院リハビリテーションは急性期・回復期だけでなく維持期・生活期（通所リハビリテーション）、地域支援事業（嚙下外来リハビリ・運転支援チームなど）に至るまで退院してから提供する医療にも力を入れています。

リハビリ対象者は脳血管疾患（脳出血・脳梗塞等）、運動器疾患（骨折・関節変形等）、廃用症候群（長期臥床による衰弱）を中心に行っています。

手厚いリハビリを実践するために働くセラピストは合計 39 名、患者さんに対するリハビリの提供は 365 日体制、一日 6 単位（約 2 時間）を目標に提供し早期離床・在宅復帰支援をすすめています。

私たちが行っているリハビリ効果についても日常生活能力の改善率や在宅復帰率などを分析して、日々より良いリハビリテーションを追求しています。



5F リハビリルーム



リハビリ部事務室



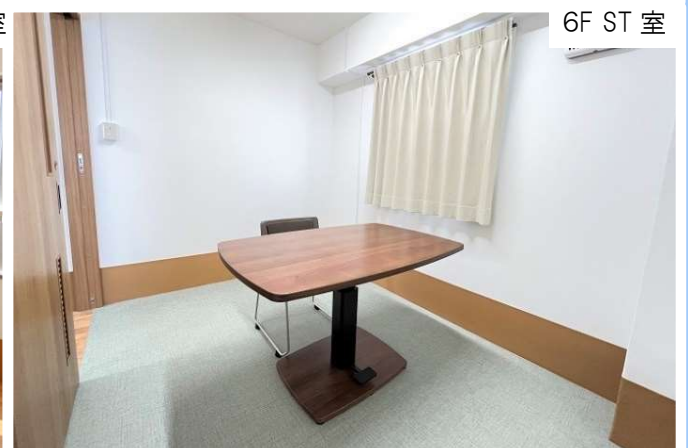
6F ADL 室



6F ADL 室



6F 調理訓練室



6F ST 室

理学療法士 20名

脳卒中等により失われた機能を取り戻すため、関節を動かしたり、筋力をつける練習、随意的運動をできる様にする促通運動、基本的な生活動作（寝返る、起きる、立つ、歩く）の練習・自立支援、在宅支援（訪問調査など）を行います。治療には体操や運動を利用する運動療法、電気・温熱・寒冷を用いる物理療法があり、また必要に応じてリハビリの時間以外で自主練習可能な運動を提案させて頂いています。患者さんの機能回復・生活動作獲得に向け、全力で取り組んでいます。



作業療法課

作業療法士 12 名

疾病や外傷により生じた身体または精神の障害に対し、様々な作業活動を用いて、治療、日常生活動作の練習・指導、在宅復帰や社会復帰へ向けた援助を行います。

発症後、早期から離床を促し、身体の機能訓練や日常生活場面に沿った応用的な動作の練習（食事、更衣、トイレなど）を行い、患者さんに合わせた動作獲得を図り、安全で自立した生活を送れるように援助します。また、退院後の生活を想定し、家事動作（調理、洗濯、掃除など）の訓練も行います。退院前には自宅の訪問調査を実施し、住宅改修や環境整備への助言や援助、自宅と同じような環境を設定した状態での日常生活動作練習や指導を行い、患者さんやご家族が安全で快適に生活できるように支援します。

近年は移動支援に関する活動にも取り組んでおり、運転に不安を抱えている患者さん・高齢者の方やそのご家族から相談を受け、必要に応じて評価・リハビリを実施しています。



言語療法課

言語聴覚士 7名

話すことや食べることが上手に行えない方と言語聴覚療法を行っています。現在の主な患者さんは、脳卒中後遺症により失語症や発声発語機能低下によるコミュニケーション障害、高次脳機能障害、顔面神経麻痺、摂食嚥下障害などを呈した方です。

～主な対象～

失語症 : 言葉の理解や表現することが難しくなる

発声発語障害 : 呂律がまわらない等、スムーズに話すことが難しくなる

摂食嚥下障害 : 食物を噛んだり飲んだりするときにムセ込む等、食べにくくなる

高次脳機能障害 : 注意機能、記憶機能等の低下により、日常生活を営むことが困難になる

言語聴覚士は上記の障害の問題の本質を明らかにする為に、各種神経心理学的検査、VF(嚥下造影検査)など他覚的検査を実施し、必要に応じて訓練、指導を行います。

